

回転式門柱扉 TKM-G型 (TKK-G型・SU-TKM-G型・SU-TKK-G型)

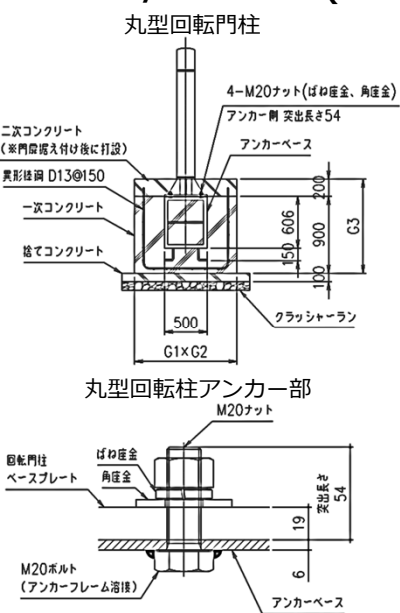
組立説明書

1 | 基礎アンカーの施工

※アンカーベース打設前に門柱スパン(W寸法)、通り芯、埋込み深さなどを設計図面でご確認の上、施工位置を決定ください。

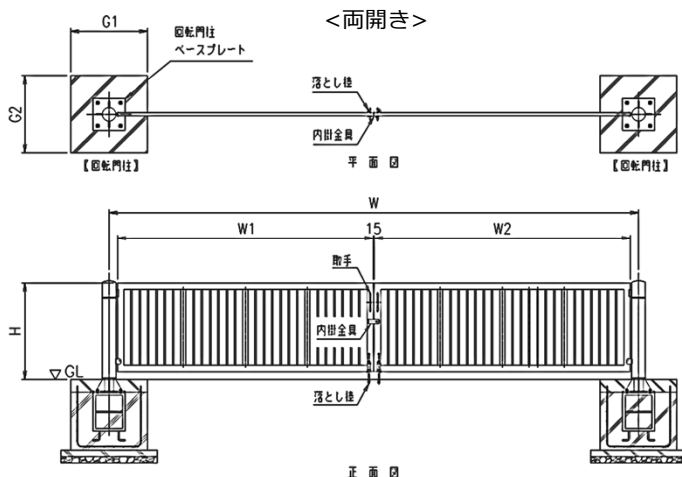
※アンカーに巻いてあるゴミ付着防止テープは施工直前まで取らないでください。

■TKM-G/SU-TKM-G(丸形門柱)



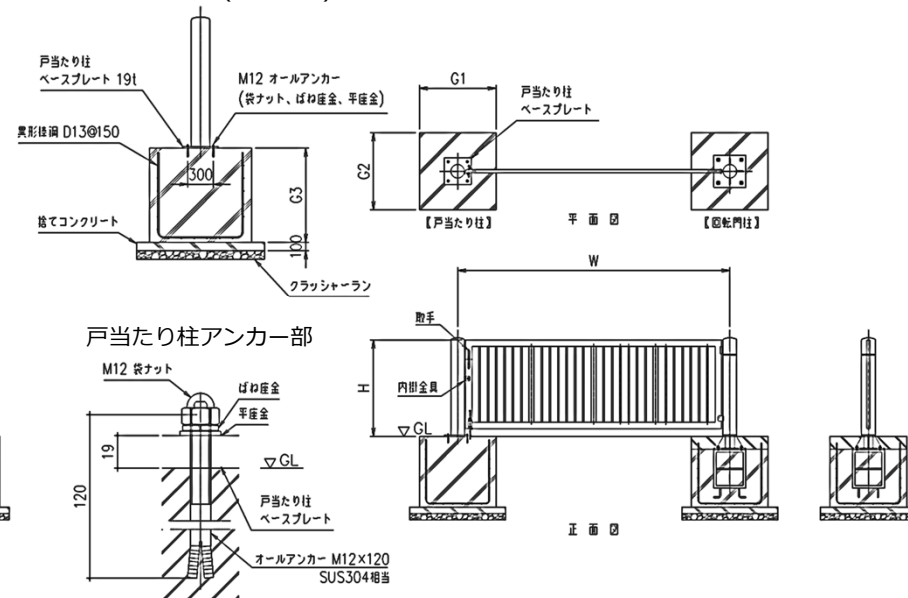
[基礎施工時の注意点]

- ①アンカーベースおよび一次コンクリート打設の後、
- ②門柱を建柱の上、二次コンクリートを打設してください

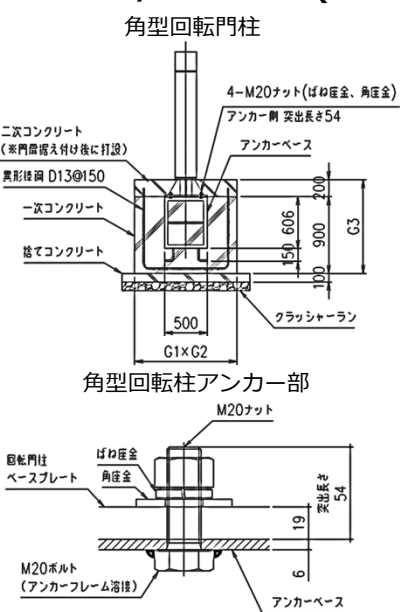


丸型戸当たり柱(片開のみ)

<片開き>

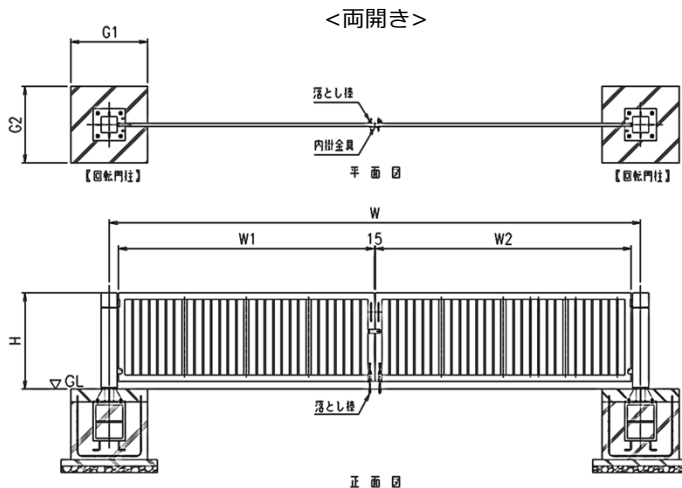


■TKK-G/SU-TKK-G(角形門柱)



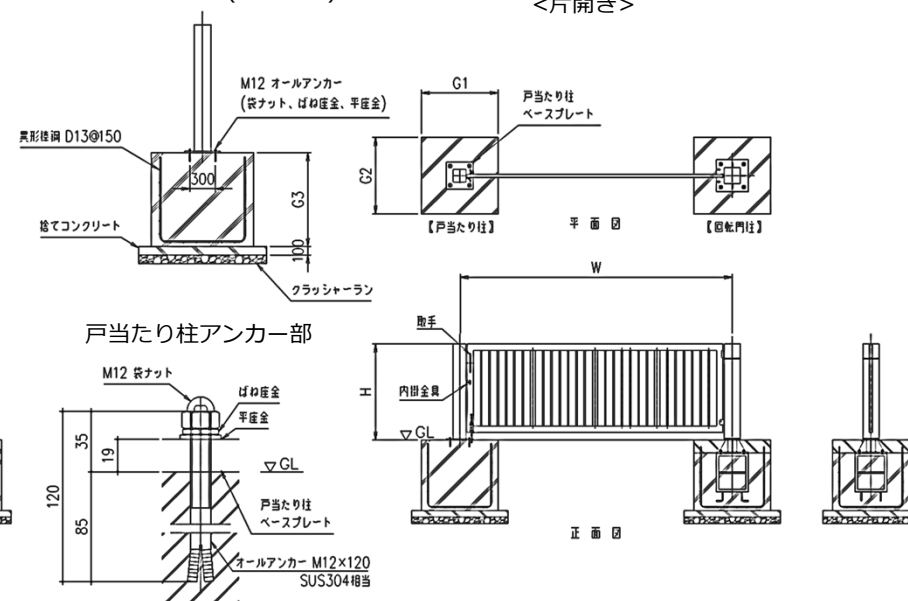
[基礎施工時の注意点]

- ①アンカーベースおよび一次コンクリート打設の後、
- ②門柱を建柱の上、二次コンクリートを打設してください



角型戸当たり柱(片開のみ)

<片開き>



回転式門柱扉 TKM-G型 (TKK-G型・SU-TKM-G型・SU-TKK-G型)

組立説明書

■組立施工に必要な工具

| 形状・サイズ | 施工箇所 |
|-------------------------|------------------|
| 1 六角ボルト M20 | 回転門柱アンカー |
| 2 六角ボルト M16 | 回転門柱・扉 |
| 3 六角ボルト M12 | 回転門柱・扉・戸当たり柱アンカー |
| 4 六角孔付皿ネジ M5 用六角レンチ 3mm | 門柱キャップ |

■増し締めに必要な工具

| 形状・サイズ | 施工箇所 |
|------------|---------|
| 5 プラスドライバー | 取手・内掛金具 |
| 6 六角ボルト M8 | 落とし棒 |
| 7 六角ボルト M6 | 取手(両側) |
| 8 六角ボルト M6 | 内掛金具 |

2 門柱の施工

回転門柱

① 回転門柱上面にセットされている図1の吊り降ろし作業用のアイボルト2本を利用して、回転門柱を吊り上げます。

② セットする向きはベースプレートに表示してある白い矢印を、門扉内側に向けます。その際、扉の開く方向を確認して下さい。

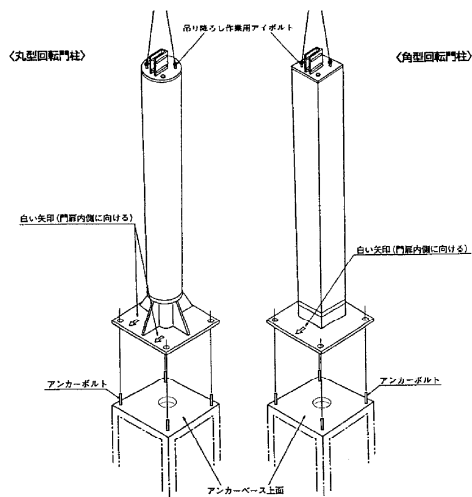


図1

※ 施工上のご注意

矢印及び扉の開きを間違えますと、あらかじめ回転門柱内に設定してある扉の回転の向きが設計と異なった向きになってしまいますので、注意して下さい。

回転門柱内で設定してある開閉角度は、ご注文の際の指定角度によって制作しております。そのため、現地での開閉角度の変更はできません。回転門扉の内開き・外開き等よく確認した上で施工作業を行って下さい。

特に丸型回転門柱の場合は2次コンクリート打設前に再度確認してください。

③ アンカーベースのM20ボルト4本を回転門柱ベースプレートの4つの穴に、M20ナット、ばね座金、角座金で仮止めしてください。

※ 施工上のご注意

1) 水平・向き・高さ等をよくご確認ください。その際、回転門柱の側面は回転させるために若干のプレが生じるため、基準としないようにご注意ください

2) アンカーをナットで締め込む際には、ネジ部のホコリ等汚れを綺麗に清掃した上で締め込み作業を行ってください。汚れた状態で締め込むとネジ部が噛み込んでナットが回らなくなってしまう場合があります。

3) ステンレスのアンカーおよびナットは、仮止めの際に強く締め込みすぎると、噛み込んでナットが回らなくなる可能性がありますので、ご注意ください。

④ 回転門柱固定後、吊り降ろし作業用アイボルト2本を備え付けのボルト2-M12×35 2本と取り替えて締め込みます。

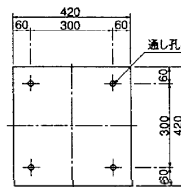
戸当たり柱

片開きの場合の戸当たり柱は設置位置を確認した上で図2の様にオールアンカーM12×120 4本を施工した上で袋ナットで仮止めて下さい。

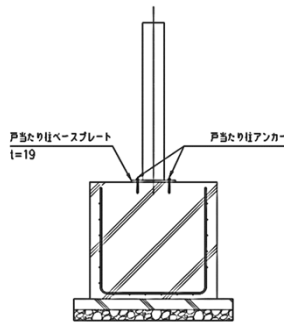
※ 施工上のご注意

オールアンカーは必ずGL+35mmで施工下さい。(※ベースプレート板厚19mmの場合)

施工寸法を誤りますと、袋ナットが締め切り切らなくなったり、締め寸法が確保できなくなる可能性がありますので、十分にご確認ください。



<丸型(角型)戸当たり柱ベースプレート>



<丸型(角型)戸当たり柱>

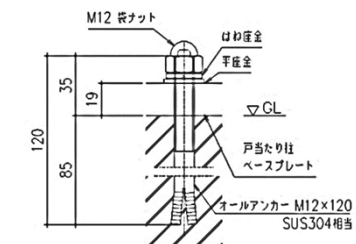


図2

<戸当たり柱アンカー詳細>

※ 施工上のご注意

回転門柱・戸当たり柱及び門扉の取り付け作業はコンクリート養生後コンクリート強度が規定に達してから行って下さい

3 扉の施工

① 扉中央部を帯ロープで傷付かないように吊り上げ、門柱に対して水平に降ろします

② 3の様に下側の連結ピンに扉切込部をさし込みます。

図4の様に扉上部支持金具を門柱のレベル調整金具の間に入れます。

④ (A)扉取付金具と(B)扉水平調整ボルトで扉上部支持金具と門柱のレベル調整金具を仮止めます。

⑤ 門柱キャップ扉水平調整ボルトを調整して、扉の水平を出し、ダブルナットでしっかり固定します。調整しきれない場合は、ライナー等を使いベースプレートの高さを調整して扉の水平を出します。

⑥ 扉の水平を調整しきれない場合はベースプレート下にライナー等スペーサーを入れて調整してください。

⑦ 扉の高さ・内掛金具の掛かり具合等、扉が正常に作動することをよく確認した上で、(A)扉取付ボルト及び回転門扉のアンカーボルト M20 ナット(片開きの場合はM12ナット)を本締めして下さい。

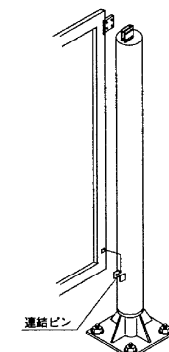


図3 門柱への扉の差し込み方

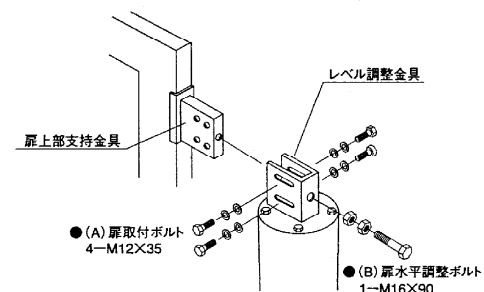


図4 扉上部の取付要領

④ 門柱キャップの施工

① 扉の取り付け・開閉具合・回転門柱内のボルトの締め具合等を確認して下さい。

② 図5の様に(C)門柱に門柱キャップ取付ボルトで門柱キャップを取付けます。

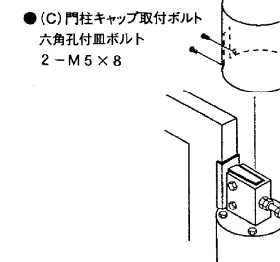


図5 門柱キャップの取付

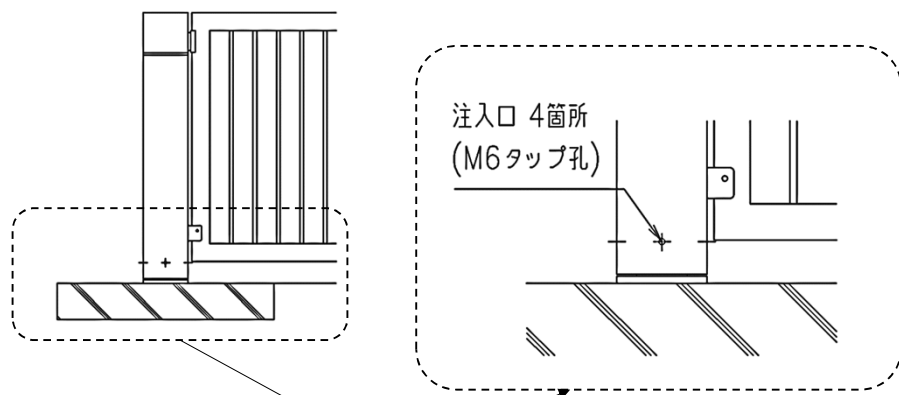
組立施工作業のご注意

● 納入した門扉にはビニール袋入りの「警告・注意シール」と「使用上の注意」が添付されています。組立施工作業終了後、ビニール袋入りの「警告」を門扉に必ず貼り付けてください。また、「使用上の注意」は現場の管理責任者のお渡し下さい。

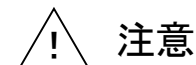
お手入れについて

- ご使用期間に伴い、動作が重くなる場合がございます。一般に入手できる潤滑油（スプレーグリス等）を定期的に塗布してください。
- 特に柱の回転動作を円滑に保つため、門柱下部にある周囲4か所の六角ボルトを取り外し、注入口にグリスを注油して下さい。
- 打掛金具の可動部についても、グリス塗布を行ってください。

回転門柱の注入口について



※ボルトを外して、4か所にグリス注入



●施工注意点

- ①商品を施工現場に仮置きする場合は地面に直接置くことを避け、台木等の上に置いてください。又、荷崩れ等無いように十分な養生を行ってください。
- ②基礎打設又は基礎ブロック据付けは所定のやり方に従い、正しい位置に水平・垂直及び通り芯に十分注意して行ってください。基礎上端が極度に地面より上がったり埋まったりしないようにしてください。
- ③施工現場にて部材の加工を行った場合は、必ず切断面、突起部分等の補修・手入れを行ってください。
- ④組立完了後ボルトナット類の増し締めを行ってください。増し締めを行わない場合ボルトの緩みにより部品の脱落、部材の破損等が発生する可能性があります。
- ⑤塗装面に傷、剥離等が生じた場合は弊社指定の補修塗料で補修を行ってください。(スチール商品)

●取扱い注意点

- ①門扉施工完了後、工事店の方がお渡しする「使用上のご注意」に記載された事項を使用者に徹底するようお願いいたします。